

SAYAMA 見えない手錠をはずすまで 上映会&監督トークショー

日時 10月19日(日) 13:00 開会

場所 倉吉交流プラザ 視聴覚ホール

狭山事件で逮捕され、無実を訴え続けてこられた石川一雄さんが令和7年3月に亡くなりました。

部落差別により教育を受けられず不当(えん罪)な逮捕に抗うこともできず殺人犯にされ、再審請求を訴え続けておられましたが現在も叶っていません。他のえん罪事件のこともあり、国はようやく再審法の改正に動きはじめました。改めて狭山事件について学び、殺人犯のレッテルを半世紀以上もの間、背負って生きてきた石川さん夫婦。正義とは何か考えてみませんか。



●定員：先着150人

●参加費：無料

●申込み：不要 ※会員以外も参加可能

日程

●受付開始：12時30分

●映画上映：13時～14時45分

●トークショー：14時50分～15時30分

◆お問い合わせ先：

事務局【市役所人権政策課内】

電話、電子メールでご連絡ください。

電話 0858-22-8130

メール jinkenseisaku@city.kurayoshi.lg.jp

※自然災害等で研修を中止する場合には当日までに倉吉市ホームページでお知らせします。

※手話通訳、場内誘導、座席の確保等について、特別な配慮をご希望の方は、10月3日(金)までにご希望の内容をお知らせください。

できる限りの対応を取らせていただきます。



不運だったけど不幸ではない！まっすぐに生きるふたりの泣き笑いの日々

どんなに大きな苦難を背負っていても、生きることは美しい。―石川一雄さんと早智子さんの出会いはその思わせてくれるものだった。1963年5月1日埼玉県狭山市でおこった女子高校生殺害事件、いわゆる「狭山事件」。犯人にでっちあげられたのは被差別部落に住む石川一雄さんだった。獄中32年、仮出獄から19年。事件から半世紀「殺人犯」というレッテルを背負い続けながら、石川さんは今もなお「私は無実です」と訴え続ける。

映画はそんな石川さんと連れ合いの早智子さんに3年寄り添った。「不運だったけど不幸ではない」というふたり。「冤罪」という強いられた人生を受け止めまっすぐ歩む、その何気ない日常のなかからあぶりだされたものは普遍的なメッセージだった。

「幸せとは」「愛とは」「友情とは」そして「正義とは」……映画は問いかける。

監督 金聖雄

石川さん本人について、実は私も何も知らない。そして、ぜひ知りたい。香山リカ（精神科医）

この映画には、「愛すべき人」がいる。「魅力的な人」がいる。それがいいんです。岡防正行（映画監督）

“そうきたか” 石川夫妻の人間像を描くことで、むしろ冤罪のむごさが伝わってくる。やくみつる（漫画家）



1 日々身体を鍛える 2 高梨前で無実を訴え続ける 3 冤罪の仲間「獄友」たち。記念撮影となるとつい正座もしてしまう 4 教育を受けられなかった一雄さんは獄中で文字を獲得した

監督：金聖雄／撮影：池田俊巳、高崎明、横山友昭、山内孝／現場録音：山田健太郎、高木西一／録音：古田茂一／音楽&ピアノ：谷川賢作／ギター&ハミング：小室等／テルミン：トリ音／パーカッション：河野“憲ちゃん”俊二／録音エンジニア：ichiro／ナレーション：伊藤悠一／編集協力：野村太／技術協力：菊池純一／制作デスク：石宮正子、中村達史、伊藤純子／スチール：村田次郎／デザイン：安田桂子／配給協力：水由麻／上映デスク：坂井えつ子／プロデューサー：陣内直行／制作：映画【SAYAMA】製作委員会

SAYAMA
みえない手錠をはずすまで



主催：倉吉市人権教育研究会
共催：部落解放同盟倉吉市協議会
後援：倉吉市・倉吉市教育委員会